

令和7年度第5回仙北市総合政策審議会議事録

- 開催日時 令和8年2月13日（金） 13：30～15：15
- 開催場所 田沢湖庁舎3階 第1会議室
- 出席者 会長 白木 智昭（秋田大学）、副会長 佐藤 慎（一般社団法人田沢湖・角館観光協会）、佐々木 和明（秋田おばこ農業協同組合）、市川 晋一（仙北市医療協議会）、畠山 隆憲（仙北市建設業協会連合会）、櫻井 誠（仙北市DX推進ラボ）
- 仙北市出席者 市長 田口 知明、副市長 赤上 陽一、総務部長 大澤 裕司、市民福祉部長兼福祉事務所長 草薨 秀典、観光文化スポーツ部長 田口 聡美、農林商工部長 門脇 朋宏、建設部長 三木 啓元、教育部長 阿部 聡、医療局長兼医療連携政策監 村瀬 克広、企画部長 齋藤 洋、企画部次長兼まちづくり課長 泉谷 衆、企画政策課長 高橋 康、企画政策課主事 長澤 結唯、仙北市総合政策アドバイザー 細川 甚孝
- 審議案件 (1) 第3次仙北市総合計画（案）について
(2) 仙北市行財政改革に係る各種報告

○泉谷企画部次長兼まちづくり課長

定刻になりましたので、ただ今から令和7年度第5回仙北市総合政策審議会を開催いたします。

本日の進行は企画部次長兼まちづくり課長の泉谷が務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

案件は、第3回および第4回審議会に引き続き、令和8年度から4か年にわたる計画である「第3次仙北市総合計画（案）について」、そして、「仙北市行財政改革に係る各種報告」となります。忌憚のないご意見をいただきますようお願い申し上げます。

本日の出席委員、市出席者は別添名簿のとおりとなります。

それでは開会にあたり、市長の田口よりご挨拶申し上げます。

○田口市長

本日は大変お忙しいところお集まりいただき、ありがとうございます。

今年は仙北市では本当に雪が多く、1月だけで当初の除雪費を消化してしまい、臨時で補正いたしました。その後も使い切ってしまう、2月18日開会の定例会でも追加補正ということで、消えてしまうものに10億近いお金を使わなければならない状況となっております。除雪しなければ生活が成り立ちませんので、やむを得ないものであります。

現在仙北市が直面している4つの課題があります。1つ目は昨年の豪雨災害、2つ目は秋田県全体に言えることですが、クマの被害、そして3つ目として人身被害も発生してしまっております豪雪、そして4つ目が公立病院の経営健全化です。そしてなおさら、今回の議題となる来年度からの第3次総合計画は大変重要なものになりますので、委員の皆様には遠慮せず、思ったことをそのままお話いただければと思いますので、本日もどうかよろしく願いいたします。

○泉谷企画部次長兼まちづくり課長

ありがとうございました。

次に、白木会長よりご挨拶をいただきたいと思います。

白木会長お願いいたします。

○白木会長

皆様お忙しい中、足元悪い中お集まりいただきましてありがとうございます。

今この審議会も5回目を迎えて、いよいよ総合計画の最終案の審議ということで、ずいぶん長い時間をかけて皆様のご議論を重ねてまいりました。

皆様のご意見を反映できているかどうか、今日は先ほど市長からもお話あったとおりの忌憚のないご意見を承って、最終案といいますか、議論の結論を導いてまいりたいと思います。

限られた時間ではありますが、ぜひご意見を賜りたいと思います。

よろしく願いいたします。

○泉谷企画部次長兼まちづくり課長

ありがとうございました。それでは議事に移りたいと思います。これ以降は白木会長に進行をお願いしたいと思います。白木会長、よろしくお願いいたします。

○白木会長

それでは、以降の進行を引き継ぎいたします。次第に従って審議案件に移ります。

本日の案件（１）「第３次仙北市総合計画（案）」についてですが、流れについて事務局より説明をお願いいたします。

○高橋企画政策課長

企画政策課の高橋です。よろしくお願いいたします。

それでは、案件（１）の流れについてご説明いたします。

はじめに、パブリックコメントで市民の皆様から寄せられたご意見と、それに対する市の考え方についてご説明いたします。

次に、第３回および第４回審議会での委員の皆様からのご意見、市議会議員全員協議会でのご意見、ならびに１月１３日から２７日の期間で実施したパブリックコメントを経て修正した主な箇所について、資料に沿ってご説明いたします。

その後、当市の政策支援アドバイザーである細川氏からコメントをいただき、最後に、本計画案の最終的な取りまとめに向けて、ご議論をお願いしたいと考えております。

審議の流れについては、以上です。よろしくお願いいたします。

○白木会長

承知しました。

案件①の流れについて、委員の皆様よりご質問等ございますか。

○佐藤副会長

議員全員協議会にて議員の皆様より指摘があったとのことですが、資料などは何かあるのでしょうか。

○高橋企画政策課長

議事録等は公開されておられません。

○臼木会長

それでは審議に入りたいと思います。

「第3次仙北市総合計画（案）」について、事務局より報告をお願いします。

○高橋企画政策課長

それでは、パブリックコメントで市民の皆様から寄せられたご意見と、それに対する市の考え方についてご説明いたします。

初めに資料「第3次仙北市総合計画（案）」に関するパブリックコメント（意見募集）の結果について」をご覧ください。1名の方から5件の意見が寄せられております。

初めに、1件目として「市の理念が「幸福度全国 No.1 のまち」では、抽象的で一般市民にはわかりにくい。サブタイトルに「誰でもが住みたくなる仙北市」とでもすれば、仙北市民に共通意識が生まれ、事業の展開がしやすいのではないだろうか。」というご意見がありました。

こちらに対する市の考え方といたしまして、「本計画の市政理念「幸福度全国 No.1 を目指すまち」については、たしかに抽象的に見えやすい一方で、ここでいう「No.1」は数値や順位で測るものではなく、市民一人ひとりが「自分の住むまちは一番だ」と誇りをもって実感できる状態を指すものとして整理しています。そのため、サブタイトルを付すこと自体を重ねて行うよりも、理念の意味を本文で丁寧に説明し、誤解なく共有することが重要だと考えています。また、理念の実現に向けた方向性は、すでに「7つのあるべき姿」を指針として定め、何を大切にし、どのような状態を目指すのかを具体化しています。例えば、「目標を持ち、やりたいことがある人が多いまち」「やりたいことにチャレンジしている人が多いまち」など、理念を“行動と施策”に落とし込む枠組みになっています。このため、ご意見の趣旨（市民に伝わりやすく、共通意識を生む表現にしたいこと）については、計画本文において既に「7つのあるべき姿」や各部局の基本目標として整理・記載していることから、改めて理念にサブタイトル等の文言を追加することは行わず、現在の構成の中で市政理念の考え方を示してまいります。」といたしております。

続きまして、2件目として「地域運営体」が一番地域住民に近い組織である。それなのに役員以外参加する人が少なく、存在すら知らない人が多いのではないだろうか。1年間に2、3回ほど決算・予算・人事など小さい字のお知らせが配られるだけである。（他の土地の様子がわからない。）もっとオープンにしてみんなで考えたりし、市の指導がほしい。」とのご意見がありました。

こちらの意見に対する市の考え方といたしましては、「地域運営体は、一番地域住民に近い組織の一つと考えています。地域単位のいわば自治的な取組を、誰かにお願いするものでなく地域住民の声をお互いに活かして自分たちの地域の課題解決や活性化に活かしていける組織ですので、改めてその活動などについて広報などを通じてお知らせし、各地域の中での関わる方を増やしていけるよう取り組んで参ります。」としております。

続きまして、3件目として「市長懇談会」のような集会はまだない。（議会も）年間少なくとも2、3回はほしい。」とのご意見がありました。

こちらの意見に対する市の考え方といたしましては、「令和8年度からの第3次仙北市総合計画では、新たに市長のタウンミーティングを年間3回計画しております。これまで公共交通座談会として地域ごとの公共交通に関する意見を担当課で伺うなどしていたものを、分野も幅広く市政一般とし、市長が直接市民のみなさんと意見交換できる機会を設けたいと考えております。」としております。

続きまして、4件目として「〇〇委員などの委員は任期があって良い。ただ座っているだけでなく、意見・提案のできる人を委員にしてほしい。」とのご意見がありました。

こちらの意見に対する市の考え方といたしましては、「市で任命している各種委員には、条例・要綱等に基づき任期を定めています。例えば、本総合計画62ページに記載の「仙北市総合政策審議会」委員についても、条例により任期が規定されています。また、総合政策審議会については、市ホームページで会議資料や議事録を公開しており、毎回、計画内容や市政課題に関して活発な意見交換を行っています。市としては、今後各審議会等において、単に形式的に参加するのではなく、課題認識や提案を持って議論に参加いただけるよう、委員の選任や運営の工夫に努めてまいります。」としております。

続きまして、5件目として「若い人がもっと社会への関心をもってほしい。老若男女の会がほしいところ。」とのご意見がありました。

こちらの意見に対する市の考え方といたしましては、「サテライトオフィス誘致や移住定住施策、インターナショナルスクールの開校（予定）などにより、地域外から仙北市に関わる方が増えてきており、若い経営者の視点、移住者という外の視点など、市民の属性も多様化してきている今は、年代を越えた縦のつながりだけでなく、同世代の中でも多様性をより意識した横のつながりの充実が、期待できる環境になってきています。今後は、市民自らが地域課題や市政に関わっていける機会が増えるよう、取り組んで参ります。」としております。

次に、総合政策審議会や市議会全員協議会を経まして修正した主な箇所についてご説明いたします。資料「第3次仙北市総合計画（案）修正点」をご覧ください。

はじめに、以前お示ししていた総合計画案ではシートの右側、左側を別々のページとしてページ番号を振っておりましたが、それが分かりづらいという部分がありましたので、シートの左下1か所にページ番号を振るかたちに修正しました。

続いて2ページ左側の中央部になりますが、水色の部分を「実施計画」と記載し、3年期間のローリング方式としていたものを、PDCA サイクルや OODA ループにより改善を重ね、部局経営方針シートと当初予算編成で毎年度明確化するために「年度運営」と修正しました。

併せて3ページ左側の図から「実施計画」という文言を削除した上で、「改善を重ね、必要に応じて機動的に事業の見直し・再編を行います」という文言を追記しています。

次に7ページ、8ページになります。議員全員協議会において、全体的な総括だけでなく、部局ごとの指標総括も必要ではないかというご指摘がありましたので、新たな項目として2ページ追加しました。

次に11ページになります。市政理念について、ページ左側のような文言だけでは、市民に伝わりづらい部分もございますので、ページ右側のとおり市政理念の要点をまとめたものを追加しました。

次に各部局の経営方針シート部分になります。

38 ページの市民福祉部施策2の KGI2 について、人口10万に当たりの自殺者数の率というのは分かりづらいというご指摘を受け、自殺者ゼロ人を目指すという目標に修正しました。

39 ページ施策5の KPI7 については、単純に人数ではなく、対象者何人分の何人かというパーセンテージで表してほしいというご指摘を受け、そのように修正しました。

次に 40 ページ観光文化スポーツ部施策 1 の KPI5 について、公式フォロワー数の目標値が低いとのご指摘がありましたので、2,700 人から 3,650 人に目標値を高めました。

次に 45 ページ農林商工部施策 4 の KPI2 について、対象となる面積を分母で示してほしいとのご指摘を受けて、市内水田面積を分母として追記しました。

次に 54 ページ教育委員会施策 7 について、冊数の増加をもって図書館の充実を図るものではなく、住民が読みたい本を充実させることが重要と考え KPI から「図書購入冊数」を削除しました。

また、55,56 ページの医療局の施策については、病院事業経営健全化計画に併せて統合病院を目標とした内容に修正しております。

そのため、総合計画につきましては、病院事業経営健全化計画の議決をもって成案とする予定としております。修正点については、以上となります。

続きまして、細川アドバイザーより、本計画についてのコメントをいただきます。細川アドバイザーよろしくお願いたします。

○細川アドバイザー

今回の計画について、他の自治体、特に北東北の自治体と比べて何が違うかと申しますと、先ほど高橋課長からもありましたが、一番特筆すべきは 2 ページ目でございます。一般論で申しますと、基本的に基本構想は 10 年でございます。基本計画は 5 年、そして従前の実施計画は 3 年、そして 1 年間の年度で回すというのが、行政計画の運営の一つのパターンでございました。しかし、本計画にも書いておりますが、10 年が長いということで、8 年・4 年で、当初は 3 年の実施計画を入れて 1 年間の年度で回すことといたしておりましたが、基本計画と実施計画は同じように扱うというところでコンパクトにしたことが大きな違いでございます。

なぜそうしたかといいますと、まず一つは、市長任期と合わせるというのがございます。市長が変われば、当然政策方針が変わりますので、そこは変えた方がいいだろうという思いと、クイックに施策を変えていくために OODA ループと基本構想、基本計画そして年度運営という概念を使うことによって、コンパクトに回していきたいという思いでしたが、実はあまり全国的に見てもない例だと思っております。運用で成果を出すべきですが、こちらについては大きな成果かなと思っております。

また、先ほど高橋課長からもお話がありましたが、7,8ページ目で、各部から前計画について達成できなかった部分についての丁寧な説明も実は他の自治体ではあまり書いておりません。基本的に行政がやることは間違わないという前提で作られておりますが、わが市は違います。正直にできなかった部分を伝え、代わりに今回の新しい計画ではこのように行おうと書いているのは、我々としては真摯に市民と向き合っていると言えるかと思います。

また、委員の皆様にもチェックしていただきましたが、やはりインプットアウトプットアウトカムによるロジックモデルを精緻なモデル、中間の目標を入れたりして丁寧に作ったという計画も実はあまりございません。北東北で言うと一関市がこれに近いモデルを使っております。

このような部分でも、委員の方がどのようにお感じになるかわかりませんが、私は行政計画とかを作る仕事をしておりますが、なかなかない、とても仙北市らしく、もっと言うと、それだけ状況が厳しいということになります。状況が厳しいので、短い単位で回し、指標についても、委員の皆様がとても有意なご指摘をいただいておりますけども、的確な指標設定をすることによって、4年間、やはりこの幸福度を上げる、そして幸福度を支える要素、チャレンジや安心、安定、健康などございますが、それを挙げるというとても機動的な計画になったと言えるのではないかなと思っております。

KPIが達成しなかった場合、毎年毎年見直して、事業をどのように変えていくか、また正直財政状況は決して良くないのでこれからおそらくお金が少なくなると想定できます。その中でどのように運用していくのかということがこれから4年間の勝負かなと思っております。以上です。

○臼木会長

ありがとうございました。第3次仙北市総合計画案のパブリックコメントとして、一般の市民の皆様から寄せられたご意見の内容とそれに対する対応、さらに議会へのご説明の中でのご指摘を受け、修正等行った点についての説明、また細川アドバイザーから今回のトータルの計画の特徴といいますか、全体的なポイントについてご説明をいただきました。

これまで何回かに分けてご議論を重ねてまいりましたが、今回は最終案について、皆様から意見をいただくということになります。この資料全体でどこの箇所でも結構です

が気になる点や、あえてまだちょっとわからない点、説明が必要だという点があれば、質問という形でも結構ですので、皆様から一通りご意見を賜りたいなと思っております。

それでは、佐藤副会長より何かございますか。

○佐藤副会長

質問の一つ目が、修正点についてですが、議員の方々からどういう意見があって、どこをどのように直したかを教えていただきたいです。

○高橋企画政策課長

まずは、No. 5の前総合計画の評価を7, 8ページへ追加したという部分、No. 8～11の部分については部局経営方針についての部分で、No. 8については、審議会の中でもご指摘がありましたが、自殺死亡率を10万人あたりで示すことが非常にわかりづらいという部分について、議員の方からもご指摘ありましたので、修正いたしております。No. 9人工透析通院費受給者数についても、対象者の分母がなければ成果がわからないというご指摘があり、分母を加えております。No. 10については、仙北市はやはり観光のまちとしてもっと公式 SNS のフォロワー数を増やすべきではないかというお話もございましたので、観光部局にて検討を行い、目標数値を大幅に増加いたしております。

○佐藤副会長

ありがとうございました。

パブリックコメントでの意見1について、これは今まで自分が話したりしていた意見と共通する部分ですが、市の考え方で「誤解なく共有することが重要だと考えています」とありますが、自分もその通りだなと思っておりますが、こういう質問が来たりこの場でもいろいろ意見が出ているということは誤解されるということだと思えます。

現状の表現について、誤解なく共有する方法や仕組みは何か新しく考えたのでし
ょうか。

○高橋企画政策課長

11ページへ「幸福度全国 No.1」とはこういったものだということを具体的に記載しており、その実現に向けて「7つのあるべき姿」や基本目標を統合し、市民と行政が一

体となって進むべき道筋を示したうえで説明しているとは思いますが、パブリックコメントにて意見をいただいた際には伝わっていないのではと感じる部分もございまして、市の考えを示したあとに意見をいただいた市民の方とお話する機会があり、この部分についてはこちらで納得していただいたような状況ではございました。

○田口市長

先ほども少し触れていますが、今後タウンミーティングを開催して、私の口から市政理念についてしっかり市民の皆さんにお伝えしていきますが、どれぐらい参加してくれるかわかりませんので、そういったことも必要なと思っております。

○佐藤副会長

そういうのも必要なという3回やるっていう予定だと思っておりますが、少ないっていうか多分市長が懸念しているようなところはあると思っております。だからこそ、結局こういう計画を作る段階で、市民に理解してもらえそうなものにするのがとっても重要だと思います。

修正点についても、メールで確認したときたったこれだけかと正直思いました。多分いろんな意見が皆様から出たので、これだけかと思っておりますが、ちょっと何か審議会の序盤でこういう話をするのもなとは思いますが、意見はもらっているが、市役所としてはこうだからこれできます、これでいきます、というように感じるところが多いなと思っております。自分も今回なかなか時間がなく、全部目を通していませんが、今日も今東京から来て電車の中でずっとできるだけ目を通してきたつもりですが、そういう感じがちょっとするので、せっかくやっていることがもったいないなとちょっと感じております。

また、話は変わりますが、これは自分ももっと早い段階で気づかなければいけなかったと思ひ反省している部分ですが、追加された7,8ページはおそらく前の4~6ページを部ごとにまとめてくれたと思ひますが、この4ページからの評価は、25年度の目標に対する1年分の評価という理解でよろしいでしょうか。

○高橋企画政策課長

こちらの方は前総合計画の部分で、昨年度と今年度の2か年での目標を定めたところ

で、現状として目標値に対して達成できなかったものが多かったことや、指標として設定したものの、実際に動いていく中で目標値としてふさわしくない部分がありましたので、それらを部局ごとに記載し、総括しているといったページとなっております。

○佐藤副会長

前総合計画ってというのは西暦で何年から何年までの計画ですか。

○齋藤企画部長

10ヶ年の計画を前期5年、後期5年ということで分けて計画いたしておりました。今回は後期の5年の3年目に新たに計画の見直しを行ったので、その3年間の積み上げで達成できた数字が、今回の評価の対象になっています。

○佐藤副会長

3年前に見直して、そこから今までの数値ということですね。わかりました。

PDCAを回すという観点からすると、7,8ページはあくまで振り返りのことだと思えますが、この数値の各市町村の資料、現状を踏まえたうえで次の計画に持っていくという回し方が正しいというか、そうしなきゃ駄目だと思いますが、ここでもう新しい計画ではこうしますということを謳ってしまうのはどうなのだろうと思います。以上です。

○齋藤企画部長

過去の反省としてできなかった部分を振り返り、そうではいけないということで、今後こうしていきますというような書き方をしておりますけれども、反省に徹するというのであれば、この先のことは書かず、この先のことについては、本計画をご覧くださいというやり方もあると思いますが、まずは反省のみではなく、次どうしていくかということが必要だということで、ここに書かせていただきました。

○臼木会長

ありがとうございます。

では続きまして、市川先生いかがでしょうか。

○市川委員

評価のことについてお話ししたいと思います、私は市民福祉部の仕事をしておりますけれども、低所得者や障害者、母子家庭、父子家庭についての記載がありますが、いずれも社会的な弱者のことがやはり進んでないということがわかりただけると思いますが、今後はその点について充実させていきたいと思っております。

また、実は教育委員会にも多少関わっているのですが、子どもたちの問題はほとんど評価されないもので、未達成のものが特に多いのが問題です。やはり厳しい状況、少子化ということが一番ではないかと思いますが、そのようなことも念頭に置き、教育は最も大事な国民の基盤になりますので、今後も力を入れていきたいと思っております。

それから、医療局とも関係がありますが、残念ながら医療局は達成したところが非常に少なく問題になっておりますが、今後新しく生まれ変わろうとしておりますので、期待するところです。しかしながら災害やコロナのことにに関して、大体民間の病院では利益のことを考えて人を出せないところもありますが、やはり公的な病院、市立秋田総合病院もそうですが、発熱外来などコロナ対応や災害に対してあくまで角館総合病院、田沢湖病院が対応してきたことは評価されるべきではないかと思えます。民間の病院がなかなか動いてくれないけれど、大学病院や公的な病院がまず動いたので、損得間の評価はできないところがありますので、その辺のところをご理解いただければと思います。また、再三申し上げますが、今仙北市の医療の改革が始まったばかりですが、実行できるような具体的なプランができておりますし、実際現在も少しずつ進行しておりますので、期待していただきたいと思えます。以上です。

○臼木会長

ありがとうございます。

市川先生のお仕事の観点にこだわらなくても結構ですが、この計画、今のご評価として市民福祉部や医療局、教育委員会の辺りのお話を伺いましたが、具体的な後半の部分も含めてですが、何かご質問やもう少し踏み込んでほしかったなど感想みたいなものでも結構ですが、何かございますか。

○市川委員

実は私、市民福祉部、医療局の事業に携わっていて、またそれを実行する立場でもあ

るので。これまでの事業は進んでおりますし、来年度計画を今立てているところで、今後さらに進行していることだけご報告したいと思います。

○臼木会長

ありがとうございました。

では続きまして、櫻井委員いかがでしょうか。

○櫻井委員

今回私こういったことに関わらせていただいて、初めていわゆる市の総合計画みたいなものを見る機会が得られたのですが、とても細かく作られているし、すごく精緻に立てられているなと思いました。もちろん修正などがたくさんあったかと思っていて、それゆえに少しもったいないなと思ったのが、この資料自体はホームページとかに公開されますよね。それなのに、あまり市民の方がほとんど見ていないのではないかと考えておまして、やはり市としては、こういうことを考えて各部局もこういうふうに行うとしているということをもう少しアピールして、もっと市の動きとか財政とかに興味を持ってもらうということをした方がいいのではないかと思います。そうすると、ここまで皆さんに作っていただいたものが日の目を見て、もっと市民からの意見もたくさんもらえてもっと斬新なアイデアや、市がこういうふうに行っているのであればもう少しここはこうやってみようというように思う人も現れるかもしれないので、その辺りのPRが欲しいなと正直に思いました。

○臼木会長

今ご指摘いただいた点として、冊子の中身もさることながら、周知や市民への理解を深めていただく方法ですとか、そういう進捗管理も含めて市民の方にこういうものに関心を持っていただくための行政としての考え方や対応策など、今お聞かせいただけるものがあれば教えていただければと思いますが、いかがでしょうか。

○齋藤企画部長

おっしゃる通り計画があるだけでは、作っただけでは何も進みませんし、多くの市民

の方々はこの計画を見ていただいて、また様々なご意見をいただいて、この計画のブラッシュアップをしていい計画にしていきたいと我々も思っておりますので、紙ベースでお渡しになるとすると、少しお金がかかりすぎるので、要約版を作ることや、ホームページや広報に要約版を掲載して、QRコードで全体を見ていただくといった工夫を重ねてまいりたいというふうに考えております。

またタウンミーティングでコアな一部を説明したり、これをテーマにしたりすることも来年度からは可能になると思います。タウンミーティングに関しては、3回で前回の門脇委員より、3回は少ないのではないかというご意見をいただき、今回の修正点の説明は省いておりますが、そのやり方として、3回以上ということで、初めてなので何回できるかということで3回以上としておりますので、回数は必要に応じて行ってまいりたいと思います。

○白木会長

ありがとうございます。

私もちょっとお伺いしたいのですが、櫻井さんはお仕事の中で、例えば行政体の人口や規模は置いておき、うまくそういった戦略などをやってらっしゃるような、あるいは市民参加が少し活発になっているようなタイプの行政はきっとデジタルなものを利用されているのではないかと思います。何かご存知のことがありましたら、少し教えていただければと思うのですが、何かご存知のことや噂で聞いたことなどでも結構ですが、何か教えていただければと思いますがいかがでしょうか。

○櫻井委員

多分皆さんなかなか衝撃だったかと思いますが、ご存知かと思いますが一時期安芸高田市長がかなりいい意味でも悪い意味でも議会の内容をつまびらかにして有名だということがあると思いますが、あれほどのことをしていただきたいという訳ではございませんが、やはり市民も私のような市民以外の人からも注目を浴びたのはやはりちょっと尖っていたというか、言葉の内容ややり方もそうですが、やはり多くの目の届く形だったというところはあると思うので、どちらかというとやはり批判などを恐れて、まろやかにしていろいろとオブラートに包んで出すことも多いと思いますが、そういうものはやはり批判があることを前提に、物事をはっきり行っていくことが注目を浴びやすい方

法ではあるのではないかと思います。それが良いか悪いかは別ですが、ただ、この人は何を言っているのだろうかということが、わからない内容を情報として出しても興味を持つことはなかなか難しいと思うので、やはり明確に伝えたいことを伝えていくということとをみんなが見るようなメディアでやっていくことが大事なのかなと思い、一番最たる目立つ例が安芸高田市長だったかなとは思っています。

他の市や県でいうと、実は正直あまり目立っているところはないと思っていて、彦根市も結局、安芸高田市長の繋がりで見立ってきたという部分はあると思うので、どこかやはり今の時代ではインフルエンサーの力を借りて広まっていくという形が手っ取り早いとすれば手っ取り早いのかなと思います。

○臼木会長

ありがとうございます。

可能かどうかは別にしても、例えばタウンミーティングなどをライブ中継したり、あるいは抜粋でも動画を YouTube などにあげて、みんなが後で時間があるときにゆっくり見られるような工夫も一つ、市民目線であってもいいのではないかなという感じはしております。やはり行政の立場では、あまりいろんな人に見られてしまうと、いろんなことを勘違いみたいなことも含めて、変なことを言われたりすると、それでも行政は対応しなければいけないので、そこを少し良くも悪くも怖がってしまうという部分はあるのかなと思います。でも、そういう誤解を解いていくということも一つこういうものを浸透させる条件かと思えますし、今、櫻井委員のお話を伺っていて、何でもかんでもデジタルにすればいい訳ではないけど、でも、怖がらないで実行するという非常にいい示唆をいただいたような気がします。またお時間ありましたら、コメントいただければと思います。

続いて畠山委員、いかがでしょうか。

○畠山委員

いろいろなものが角館の方に集中してきていますが、それに伴ってというわけではないとは思いますが、国道でどうしてもお年寄りの方でも運転される方がいるので、今まで20分ぐらいで行けていましたが、今はもう30分ほどかかるような状況になってきているので、いろいろ医療 MaaS など進めていただいていると思いますので、病院な

どいろいろなところに行くという、仙北市の行政のところに行くという部分に関して、何かお年寄りの方でも使えるようなデジタルがもっともっと進んでいければと、今関係ないことかもしれませんが、そういったことを思っておりました。他は特にはないです。

○白木会長

今のご指摘で、行政の DX やデジタル化の推進で、例えばマイナンバーを使ってコンビニでいろんなことができることや、デジタルで、在宅でいろいろな手続きや行政とのコンタクトを取れるというようなことが全国各地で行われているとは思いますが、デジタル化云々の部分で何か目玉になるような取り組みについて、具体的にこの KPI などの目標の中であれば一つ二つご紹介いただければと思いますが、いかがでしょうか。

○大澤総務部長

行政手続きの DX 促進という項目の中に、今後の取り組みとして電子契約システム導入の検討、情報システムの共同調達の検討、電子決裁システムの導入があります。これ以外にも、市民がオンラインで自宅などどこからでも申請できるような仕組みについてはこれから当然やっていきますので、電子申請による行政手続きのオンライン化、証明書のコンビニ交付サービス、公共施設利用申請のスマート化ということを文言として入れておりますので、それに向けて進めていく所存でございます。

○白木会長

ありがとうございます。

私事で申し訳ないのですが、自宅で修繕が必要になり、ハウスメーカーとやり取りをしていたのですが、電子契約で進めませんかと言われて、いつもは手紙が来て、ハンコを押して、送り返してという流れで1週間も2週間もかかってしまいましたが、電子メールのやり取りで、30分ほどで全ての契約が終わってしまうくらい素早くできたという経験を最近しました。

やはりいろんなことについて、直接行ってフェイストウフェイスでという形ももちろん行政では大切だと思うのですが、一方で簡素化できる部分は今教えていただいたように、何か DX というかデジタル技術をもっともっと活用して市民のそういう意味での負担を軽減するというような取り組みをぜひこれからの時代ですんで進めていただけれ

ばと思います。

はい。

ありがとうございますではまたお時間あれば伺いますけれども、佐々木さん、いかがでしょう？

○佐々木委員

農協の複合部門の実績内容ですが、今おぼこ管内で園芸については年間 22 億の計画をしておりまして、12 月末現在で 17 億 2000 万ということで計画的に行きますと、96%ほどで、前年と比べましても 93%ということで、なかなか思うように計画が進んでいないというのが実情です。

畜産は年間計画で 13 億 4000 万ということで、12 月末で 103%ですが、前年と比べますと 99%ほどということで、畜産の方は、横ばいとなっております。

複合部門については園芸・畜産が大きな柱となっておりますけれども、行政も農業関係の方は限られた予算の中での取り組みということですので、JA としても行政と連携取りながら複合部門の拡大について進めていきたいなということをつくづく感じております。こういう長い計画ですので、継続した取り組みをよろしく願いたいなと思います。以上です。

○臼木会長

ありがとうございました。コメントをいただきましたけれども、佐々木さんの方でこの具体的な取り組みの中で特に何か評価したいことや、特にここは力を入れていただきたいといった具体的な取り組みなどはございますか。

○佐々木委員

この中にも記載されておりますが、新規就農者のボランティアなど新しく農業を継ぐための若手の育成ということで、非常にいいことだと思っておりますが、実際現場を見てみますと、研修したにも関わらずなかなか定着しないことがあり、頑張っただけでやっただけでいる方もおりますが、実際に見てみますと、活かされていない人が多いのかなと感じております。給料を払ってしまうとそこの農業経営が厳しいということで、最初は給料を払っておりますが、なかなか払い切れなくなることで、ちょっとしたアルバ

イトのような形で他の方の仕事に行ったりしているのが実情で、何とかそのような方々を繋げることができたらいいのではないかと考えておりますが、なかなかいい案が出ていないのが個人的な実情です。

○臼木会長

ありがとうございます。

決して今すぐやってほしいといったご意見ではなく、この新規就農を増やしていくという取り組みは、地域の農業の担い手確保や、若い人に農業に関わっていただくという長い目を見た投資のような、人材育成という点で、すごく重要な施策だと思いますが、実際なかなか定着という面で厳しいというご指摘もありましたが、今後何か次年度の当初やこれからの具体的な取り組みの中で、新しい取組や注力していく新規営農の方への雇用対策のようなお考えなどありますでしょうか。

○門脇農林商工部長

新規就農の件についてですが、計画44ページの下段に記載しております「秋田アグリフロンティア育成研修事業」など3つの補助金を予定しております。佐々木委員がおっしゃった通り、2年、3年の研修期間を経て、ようやく研修期間が終了したけれども、いきなり単独でというのがなかなか難しく、結果的に離農してしまうというケースが見られるようになっております。

新たな事業というわけではございませんが、そのような新規就農者に対して、例えば大規模な法人等に一旦就職していただいた後に独立していただくということを段階的に考えていかなければならないのではないかと考えております。

○臼木会長

ありがとうございました。具体的に予算をとって事業をしていく中で、いろいろなアイデアが出てくると思いますが、おそらく問題意識というか考え方は、今の佐々木委員のご指摘と当局の問題意識、課題意識がおそらく同じ方向性かと思しますので、ぜひこういった取組、地味で息の長い取組になると思いますが、ぜひ頑張ってくださいと思います。

一通りお話を伺いましたが、私も少しだけコメントをさせていただいた上で、もう一

度皆さんから言い足りなかった部分や皆さんのお話を聞いて改めて聞いてみたいという部分がもしありましたら、改めてお時間を取りたいと思います。

では私の方からは、まずいろいろなご意見が出ておりましたけれども、考え方にブレがなく、最終的に市長がおっしゃっていたこういう計画を作りたいというのが形として文字として姿としてできたのではないかと感じております。それも市長の意見をただ写しただけではなくて、いろいろな方の意見、特に委員の皆さんのご意見の反映もされておりますし、今まで達成できてない、未達の部分をどのようにこれからリカバリーしていくのかというようなこともちゃんと過去の反省と現状を踏まえて、これからの取組についてまとめてらっしゃるということで、すごく意欲的な目標も掲げてらっしゃると思うので、その点仙北市らしさという言い方が適切かどうかわかりませんが、すごくユニークな計画ができたのではないかと感じています。

私も、あちこちの総合計画のこういった会議の座長やらせていただいたりしておりますが、先ほど細川アドバイザーがおっしゃっていたとおり、反省のページを割いて書いているという部分は、私も見たことがないので非常に真摯だなというか、真面目にこれからのことを考えていらっしゃるのだなと感じております。

その上で、気にしていただく必要がきつとあるし、政策の中にも反映されていますが、やはり財政状況がかなり厳しいと感じています。やらなければいけないことはたくさんありますし、それはどこの自治体も一緒に法的にやらなければいけない、義務化されているものを国の代わりに充てることもありますので、そういったことを引いていって、職員の皆さんの人件費などを支払っていくと、おそらく全く切りしろがなく、余裕のない状況がしばらく続くのだらうと感じております。23 ページにさらっと数字が出ておりますが、あえて少しシビアな言い方をすると、かなり深刻な財政状況の中でどのようにやりくりされていくのだらうかと感じています。こういったものを取り扱う専門家として、例えば経常収支比率が100を超える状況というのはなかなか恐ろしい状況でこういったものを見ながら公営病院が2つということのを伺うと、どのように整理をつけていくのだらうかと、正直経営目線で感じています。

一方で、そういうご認識があった上で、例えば総務部の取組を見ても、できることをやっていこうというのがきちんと見えていて、DXなどを利用しながら効率化を進めつつ、財政健全化に努めたり、あるいはふるさと納税をもっともっと増やしていこうという健全化に向けた取組についてコメントをされてらっしゃるので、とても大変な中でい

ろいろな課題に限られた予算を振り向けていかなければならないということはすごく感じますが、ただ市民の期待というのもやはりかなり大きいと思いますので、そのやりくりをうまくやっていただくことが当面の課題なのかなと感じております。経済や経営の専門家でよく言うナイフエッジというナイフの刃の上を渡り歩くという意味で危うい状況を指しますが、まさに仙北市に限りませんが、日本の地方自治体の財政でもナイフエッジの上を歩いているような世界なので、極端に雪が降ったり災害が起こったりすると、どんどんやりたいことが後ろ倒しになってしまうというようなこともあるので、なかなか市民のご理解など様々なことに目配りをするというのは本当に大変だと思っておりますが、ぜひお金の面もフォローしながら、この計画を遂行していただけるように頑張っていたきたいなというふうに思います。感想みたいな話で恐縮です。

では改めて、一通りコメントを頂戴しましたけれども、もう少し確認しておきたいことなどございますか。最後の審議会ですので、ちょっと念押ししたいことやもう少しここは書いてもらいたいといったことなどございませんか。

○佐藤副会長

私もずっとこの会に参加して、今会長がおっしゃった反省するところなどをしっかり書いていることはすごいなと思っています。言葉をバーっと言うので、きつく思われていないかなと思って心配していますが、本当にそう思っています。

ただ、一応今回いただいた前回の議事録にも目通してきました。一番は自分中で喋ったことを忘れていたので、そこからこういうことを喋ったなということを確認の意味で見ると、会長のコメントでも財政の部分はやはり前回もおっしゃっていますし、自分も本当そう思いますし、会社に行ったらもう債務超過で銀行からもうお金は貸しませんなんて言われてもおかしくないような状態だとは思っています。

そこはただ行政団体というところの特殊性はあるとは思いますが、そういう中でこの審議会に参加させてもらってからずっと自分はずっとうちの会社や周りの企業がやっているような PDCA の回し方というところにフォーカスしてやってきているつもりです。実際も本当はそういうことをずっと前からやらなければ駄目だったとは思いますが、過去のこと言ってもしょうがないのですが、今までなかなかそこに踏み込んでこなかったのだろうと思って、今の市長になって細川さんもアドバイザーとして来てくださって、こういった中期的な取組は非常にいいことだなと思っています。自分でもうち

の会社でやっているようなことを何か参考になればと思って喋ってきたつもりですが、最後ということで、来年度にもこの計画を発表するからもう時間がないので、今回には間に合わないと思いますが、今までのそういう5年や10年だったら見直すということはありませんが、これからは毎年見直すということだったので、次回はぜひ考えてもらえればいいなと自分は思っていますが、やっぱり何回見ても、各部局の達成基準 KGI のところに市民意識調査の結果が出てくるのは、自分はやっぱり KGI にするべきはないなと思っています。やはり非常にぶれてくるのではないかなと思っているので、具体的な数字や、その施策に対する最適な単位の数字を活用しなければ結局、計画の段階でほぼ決まる部分もあると思うので、そこは何とか次も考えてほしいなと思います。前回の議事録を見ると市長ももう一度再考する必要があるとおっしゃってくれているので、作ってしまえば終わりといったことがよくあるので、1年後、忘れた頃にもう1回同じように作るということになると思うので、そうならないようにぜひやっていただきたいと非常に強く思っております。

また細かいところですが、例えば、35 ページ施策3の取り組む背景において、財政調整基金の枯渇やふるさと納税頼みの予算編成からの脱却が必須で、歳入・歳出両面から大胆な見直しを行うと記載されていて、これは自分もそうだなと思いますが、具体的な指標 KPI のところに、結局ふるさと納税の寄附額が書いてあって、でも議事録を見るとやっぱり会長もふるさと納税頼みは危険だとそれは多分皆さん同じ考えだと思います。KPI1 については研究会を2回やる、KPI3 については事務事業評価等による見直し・改善数を何かの指標でやるということですが、大胆な見直しを行うと言っているのに、指標がこれだけしかないということは非常に脅威だと思います。実際何も計画できないのではないかとこれだけ見ればそう捉えられてしまうと思うので、そういうところの整合性などをやっぱりもう少し考えた方がいいのではないかと思います。

ずっとこの会議でいろいろ喋っていて、自分の話したところは皆さん考えてくださって、見直しされたり見直されなかったりしていると思いますが、自分が言いたいのは、数字の%や円、人数、回数などいろいろな単位があると思いますが、その整合性についてその施策に合っているか、それが繋がっていくかということを見直して欲しいということを言っているつもりでしたが、時間もなかったので、全部のことは言いませんでしたが、各部局の一つ一つの施策における整合性のチェックが自分からすると、まだまだ直すべきところがたくさんあると思いますが、時間がないので、直せるかどうかわか

りませんが、いずれこの計画をきっちり作らなければ、結局努力してもそのとき結果の数値が曖昧な判断基準であれば、大変だろうと思ったので、そこを何とかもう少し考えて作ってもらえれば良いなと思っております。以上です。

○臼木会長

全体的なお話でもあり、今までの議論の中で何度か佐藤委員からもご指摘があって、一つ一つの指標が目標に対しての KGI にせよ KPI にせよ、設定自体も果たして適切かということもありますし、それ以上に、目標に対してそれぞれの KPI の達成云々ということで、この目標が達成できるという組み立てには一応なっていますが、こういう指標3つをクリアできればいいのか、あるいはこの目標自体の水準がどうなのかと今まで何度か議論をして来たお話だと思います。

おそらく、佐藤委員がおっしゃりたいことは、これはこれで出来上がったものだし議論の末にいろいろなことを考えて作っているの、今ここですぐ直してほしいということではなく、見直しをするという、絶えず進捗管理をしていただけるというお話も何度も伺っていますので、この目標を達成したら終わりでもないし、達成しないから駄目ということでもなくて、達成したら違う目標を立てる必要があるのかもしれないし、達成できなければそもそも目標設定やその KPI 設定がおかしいということもあり得ると思うので、これがもう4年間固定したものとはいえ、1ミリも動かさないということではなく、動きながら、足したり引いたり変えたりしながら、ぜひ効果のあるものにしていただきたいという、そういうメッセージだと思いますので、ぜひ進捗管理の方に今まで以上に力を注いでいただければと思います。

○細川アドバイザー

仙北市になって始めた57ページに記載しておりますチャレンジ事業を入れたという部分も今回の特徴であり、委員の方にぜひ注視していただきたいと思います。

これは各部が目玉として、ここ4年間やると言っている事業でございます。これは当然我々もそうですし原課の活動も詰めて議論した結果、事業として出てきておりますので、この部分をちゃんとやっているかどうか、ぜひご意見をいただければ幸いです。

○白木会長

今 57 ページに触れていただいたのでお話をさせていただきたいのですが、この宿泊税はなかなかハードル高くて、反対や抵抗も大きいのですが、観光地という目線で見ると仙北市のようなところがチャレンジするに値するような目的税だと思うので、ぜひ先鞭をつけていただきたいなと専門家としては思っています。

皆さん抵抗が強く、特に税については本当に抵抗が強く、他の市でも検討はするけど、なかなか厳しく、計画や研究をするけれど、そこでどうしてもあとちょっと様子を見るということになってしまうのですが、こういった観光に特化した目的税というのは、もし災害があったり、コロナのようなことがもう一度あったり、クマのことでお客さんが減ったりしたときに、本当にそういう事業者さんをサポートできるタイプの税金です。観光の事業は一般的な財源や裏付けのない普通の税金を投入する以外の策ということはないということは実はあまりご理解いただいている方がおらず、何か困ると陳情に来られる方がたくさんいらっしゃると思いますが、財源については、雪が降るといろいろな形で国からあとで来たり、災害が起こると国から助けてもらえるということはあるのですが、観光そのものというものはあまりないですね。でもおそらくこの地域にとっての主力産業は観光だと思いますし、その税金を住民から取るというのではなく、観光客から、泊まる人からとって、将来観光地としていろいろなことに使っていこうというのは実に合理的で整合性があると思うのですが、でも税金というのはなかなか抵抗があって、実際に導入するには時間も議論も必要だと思いますが、ぜひぜひ仙北市のようなところでチャレンジしていただきたいなと個人的には思っております。

○田口市長

実は今日の午前中、非常にゆかりのある山梨県の富士河口湖町の町長他 9 名の方が来庁されました。クニマスで繋がったもので、今日ちょうどふるさと納税の話が出まして、富士河口湖町は今インバウンドでオーバーツーリズムということで、何で有名になったかという、ローソンの上に富士山が見える、あの黒い囲いがあったものですが、すごいと聞きました。

実は 3 月に議会で宿泊税を導入するというので、どうやって持っていったのかお話を具体的に聞きました。最初はやはり先生もおっしゃっていたとおり、仙北市もそうですがやはり宿泊業者さんの方々が反対をしたそうです。でも実は、宿泊税とは何なのか

ちゃんと理解していなくて、例えば臼木先生のような学識経験者に宿泊税についてしっかり説明していただいたそうです。これも全く同じですが、富士河口湖町でも入湯税と宿泊税が混合していて、これらは全然違うというところを説明したそうです。我々も勝手に使うだろうとよく言われますが、入湯税は市の税金の税収なので、我々の判断で税金として使わせてもらうことはなんらおかしくないのですが、宿泊税は目的税なのでただしっかりと何に使うかを示すことができればいいのですが、現段階で仙北市の状況はその話し合いを持ちましょうと言ったときに責任をつきたくないという状況です。

まず宿泊税というものは、それを導入することで、観光業者、宿泊業者さんにどういうメリットがあるのか、先ほど先生におっしゃっていただいた自分たちが納税するものではなく、外部から来た人たちが納税するものなので、富士河口湖町さんが宿泊客にアンケート調査しましたところ、500円くらいまでだったらいいという回答が大半だったそうです。ワンコインだったらいい、今の宿泊料の値上げを考えると500円くらいという感覚だそうで、富士河口湖町さんも年間30万人ほどの宿泊者がいるということでしたので、非常に大きい税収があって、花火大会はスポンサーを集めてやっているけれども、そういう宿泊税を導入することでそういったことも必要なくなったり、やはりその厳しい状況の中で財源の確保ができるということは非常にメリットのあるところで、それが徐々に認知されたということでしたので、仙北市も粘り強く、宿泊税については取り組んでいきたいと思っております。

○臼木会長

総合計画案についての質疑ということで、本日、皆さんより一通り感想も含めてご意見、ご指摘賜りました。よろしければもし間に合うもの、あるいは若干でも修正可能なものがもしあれば、そのあたりはぜひ事務局の皆様で汲み取っていただいて、可能な範囲で対応いただければと思いますし、難しい場合であっても、先ほど佐藤委員からもありましたように進捗管理にエネルギーを注いでいただいて、KPI達成が目標のではなく、この計画が目指すところを達成できるよう、ぜひ、事務局の皆さん、職員の皆さんにも取り組みをお願いしたいと思います。

それでは案件の次の2番目です。仙北市行財政改革に係る各種報告について、事務局からご説明をお願いしたいと思います。

○高橋企画政策課長

それでは、仙北市行財政改革に係る各種報告についてご説明いたします。

報告事項といたしまして、第1回および第2回審議会にて、委員の皆様にもご議論いただきました事務事業評価の最終結果と総合計画に紐づいた各部局の施策評価の最終結果という2案件となります。

この2案件について、細川アドバイザーより評価概要、説明と考察を一括して行っていただきます。アドバイザーよろしく願います。

○細川アドバイザー

このような報告でいただくご意見として、これは評価がすでに決まっていますわざわざやらなくてもいいだろうという声があることが一般的ですが、仙北市は違います。結構大胆に変わっています。そこについてはご安心いただきたいですが、そのことについてご説明したいと思います。

まず事務事業評価の一次評価結果順という資料の最終ページを見ていただきたいですが、現状維持が93%というよくある内容でございます。しかし、審議会委員の皆様にも外部評価でご審議いただいたのち、市長・副市長などメインのメンバー入れました二次評価では現状維持が93%から76.7%と、だいぶ減っております。代わりに縮小、そして拡充が増えるというところは、実は我々がしっかり戦略的にできているというところがわかるかと思えます。

先ほど会長よりお話のありましたとおり、お金がない中でやりくりをどうするかという点については事務事業評価シートでございますが、来年度予算を審議する際、一つの大きな情報として取り扱うことになっております。皆さんに見ていただきたいのは二次評価のところですが、一次評価から評価結果が変わっているものがございます。実はこれは、試行錯誤の結果でございます。例えば、DX推進事業費が継続から拡充となっておりますが、これは現場が継続ではないかと評価しましたが、市長レベルと議論した結果、やはり拡充ではないかとなった結果でございます。また逆に、神代出張所費については一次評価が継続でしたが、この会の議論も踏まえて、二次評価では縮小となっております。このように、しっかりと議論して、いわゆる現場職員の意見だけではなく、皆さんの意見、そして一番のマネージャーである市長の意見も含め、確実に議論をして変えたという部分が今回のポイントでございます。しかし、二次評価で継続が若干減りまし

たが、これはもう少し、6割ほどにまではできたかなと思います。しかし、拡充と縮小をちゃんと増やせたということは、この審議会でご協力いただいた大きな結果かと思えます。

また、シートを見ていただければ、こういうプロセスで、特に今後の方向性の部分ですが、各部の議論と我々の議論と皆さん方の議論がどのようにかみ合って最終的な評価になったかということがわかるかと思えますので、ご確認いただければ幸いです。

続きまして施策評価についてですが、評価一覧をご覧ください。最後の部分を見ていただくとわかりますが、一次評価では5番の現状維持が多いですが、皆さん方の意見、そして市長、副市長等の意見を踏まえ二次評価では、5番は約半減しております。代わりに9番のコストを抑制しながら内容を見直すという評価が、皆様のご意見、そして市長等との意見を踏まえ発生した大きなところでございます。この政策は全般的に見直すというものになりますので、その部分が今回の施策評価をやってよかった部分かと思っております。

多くの自治体では、このプロセスを知らないのも、一つ一つ事務を削ってくという、枯れた雑巾をもう1回絞るみたいなことができないのですが、仙北市は違うということがわかったので、これは非常にやってよかったかなと思います。

シートについても、先ほどありました成果や効果、そしてコストの関係性、また意識調査の関係性も踏まえ判断しているというのがこの仙北市の仕組みのポイントでございます。

事務事業評価は指標が毎年出てきますので、先ほど佐藤副会長よりお話のありましたモニタリングについては一応できる仕組みになっております。あり得ることとして、現場ではしっかりと事業を実施しているのにコストのわりに成果出ないといったことについては、丁寧な議論を来年度以降また積み重ねて精緻に幸福度を上げるということをやっていきたいと思います。

また、財政的な問題ですが、今内部では中期財政計画を作成して、中期的なお金の出し入れの議論をもう一度やろうという動きもありますので、それも踏まえ、最後は一つの中でやりくりをどうやっていくのかというトライをやっていきたいと思います。

おそらく多くの方は読みたくないものかと思いますが、皆様に読んでいただきたいなと思います。こういう仕組みでできているという部分が皆さんにお伝えしたいポイント

でございます。以上でございます。

○臼木会長

ありがとうございました。

案件の2番目として、仙北市行財政改革関係に係る各種報告をいただきました。各委員の皆様から何かご質問や確認がございましたら伺いたいと思いますがいかがでしょうか。

○佐藤副会長

それぞれの資料を見て、この順番については理解しましたが、この順位付け、順番付けは何か理由があるのですか。

○細川アドバイザー

満足度と重要度が下に紐付いてくるものになっており、市民の満足度、重要度かつそれぞれのKPIで示されたものを踏まえて、一次評価では評価として出てきています。

○佐藤副会長

何かの順番があって、これからおそらくこの資料をもとに、次は何をどうするかという資料になるだろうと思って見ていたので、その判断がこの順番にあるのかなと思って見ていました。

○細川アドバイザー

評価が1～9までございまして、それに基づいて来年度予算でどの政策にどれぐらいお金を配るのかというガイドラインにしております。

○佐藤副会長

同じ1のカテゴリーになったところで、優先順位について順位付けをする根拠はあるのかなと思いました。

○細川アドバイザー

それはないです。それは内部調整だけで決まります。これはあくまでもガイドラインとなります。一次評価については、市民意識調査での満足度および重要度に基づいて決定されます。

○佐藤副会長

なんとなくわかりました。

では、満足度と重要度ではどちらがより優先されるべきですか。

○細川アドバイザー

両方です。

公共施設マネジメントを用いて説明いたしますが、満足度が高く、KPIを達成しているかどうかについては手法のあり方の検討を参考にします。満足度とKPIの指標を掛け合わせることで、コストをこれ以上にかけるかかけないかの検討が可能となります。また、重要度と各課における重要度をチェックすることによってやり方の検討が可能となります。

これらのコストとやり方のクロス表を作って、方針を決めるという仕組みにしているため、両方とも重要となります。

それを重ね合わせてコストをこれ以上に上げる、もしくは小さくする。また、やり方や内容を強化する、またはあまり強化しないという3×3のマトリックスで9の象限を作っているという仕組みでございます。

この仕組みによってコストはかけたくない、かけられないけれども、もっとやり方を考えるというパターンも考えられますし、やり方はあまり変えないけれどもコストはもっとかけてもいいなどのパターンが想定されます。

なぜそうするかというと、正直仙北市もずっとこういう事務事業評価を行ってきて、じりじりと詰めてきました。ところがもう絞りきれないぐらいに絞ってきております。そうすると、各部ごとにお金の配分を調整してもらおうという形にしなければ、もう市長が予算編成時期に抱えきれないということが考えられます。全体のバランスを見る人が個別のバランスについても見なければならなくなりますので、それを抑制するために作っている仕組みです。

○田口市長

元々予算編成のやり方がひどく、最初からこれだけしか予算がないとわかっているのに、各部からとてつもない予算要求があり、財政課と市長が予算を削ることになります。それを最初からしっかり評価しなければ、結局担当の予算要求した方からすると、財政課に予算を削られた、市長に予算を切られた、という話になり、そんな不毛な作業しなければいけない状態で、今後、今の厳しい財政状況を全体的に俯瞰しながら削減することが難しいので、このような評価をしっかりとしたうえで、継続や拡充、削減、あるいは廃止するということを決めていこうということで、こういった一次評価や二次評価というものを実施しています。

○臼木会長

少しだけ今の市長の発言に私も補足させていただくと、こういう予算のお好きなだけ出してから後で削るのか、前もってある程度縛りをかけてここはもう出せません、でも出せるところはここです、というように前もって捌くのか、どっちにするかというものになります。前もって捌くことになると新しいルールを決めて実施するということになります。しかし、これだけ削っても全部その通りになるかというと、議会の議論の中で、これはいくら何でも削りすぎだとか、逆にこれはいくら何でも盛りすぎという議論が入るので、ここでの評価というのはあくまで、行政サイド、運営サイド、執行部サイドがこういうふうにしたいという意見を市民、議会に提示して、その上でまた予算が作られていくので、なかなかこの評価を実施したからといって完全に削れる、削りたいものがなくなるといった簡単な話でもないということが民間企業とちょっと違うところです。株主総会が通ってしまえばあとはフリーハンドというわけにいかないのがなかなか議会行政の難しいところかなと思います。

ただ、このような方針でちゃんとこういう理屈で予算をつけたり削ったりしているということを見せるということは、実はとても大事で、市長が好きでやっているのではないかと反論があるよくわからない議論になってしまっていますが、ちゃんと反論する側もロジカルにいかないと反論できないという仕組みを、これから作っていこうというアプローチかなと思います。

ただそうすればするほど、どんどん難しくなっていきます。佐藤副会長がおっしゃったとおり、ぱっと見ではわからないところが出てくるので、そこをどう議会で、市民に

どういう理屈でこうしたのかという部分を紐解くという作業は必要かなという気はします。でも、まずやってみましょうということかなと私は理解しました。

○佐藤副会長

ちょっと話がずれますが、私がこの審議会で後ろに議員の方が何人か来ているときに、そもそもこの我々の仕事は議員の仕事だと言って、その議員に確認したら、これは別に議会の承認とかではないとのことでしたが、この総合計画は議会の承認が必要ないということですよ。

○細川アドバイザー

条例上はそうなっております。

○佐藤副会長

議会でこの計画を承認してもらった方が、議会の中でも議員の人たちがもっと熟読してもらったほうが、後々行政サイドとしてはやりやすいのではないかと思います、議決事項にすればいいのではないかと思います。

○齋藤企画部長

お隣の大仙市では議決事項にしています。

結局、議決事項にしている市町村は、全て調べたわけではないですが、半分いかないくらいでした。議決事項にすることで議会にも一定の責任を持っていただくということが重要ですが、ただ一方で議会の議決事項にしまうと、見直しが発生するたびに議会を開かなければならないというところも出てきますので、そこは良し悪しかなというところはあります。

○佐藤副会長

ここをちゃんとやってしまえば、議会の人たちも当然理解し、終始いろいろ質問もどんどんすると思います。またすぐその後に予算のことについても、計画にのっとなって、こういう方向でいきますということを示せるからいいのではないかと思います。

○田口市長

人口がどんどん減っていくということは間違いなく税収が減ります。そうすると、仙北市という家庭では毎年収入が減少し、これまで当たり前できていたことができなくなります。優先順位を決めて、食事は必要、除雪費はどうしてもかかる、ではこの部分は削るということを行っていかねばならないというのが今の状況です。では削る部分についてどのように削っていった収入と支出のバランスをとるか、このバランスの調整を行いたいと考えています。現在はバランスが取れていないので、ふるさと納税に頼った、松葉杖をついている状態で、先ほど市川先生よりお話のありました両公立病院の毎年9億円の赤字を支出しています。仙北市の200億円の財政規模で14億円の繰出がどれほど大きいのかを考えると、この部分を少なくしていかなければどうにもならないという状況ですので、なんとかして存続していくための事務事業評価や施策評価、また皆様にもご評価いただいているという状況です。この状況については議員の皆様にはご理解いただいていると思いますが、市民の皆様にもご理解いただく必要がありますが、我々の発信力が足りていない部分もございますし、市民の皆様に関心を持っていただき、現在のふるさとの状況をタウンミーティングなどで私も市民の皆様と直接意見交換しながら、我々の置かれている状況も説明しつつ、あるべき仙北市の姿、2万人でもみんなが幸福度を感じて生活できるような仙北市を皆様と作っていただければと思います。

ここまで財政硬直化している残念な状況について、もっと前からわかっていたのですが、でも結局立て直すことができずここまで来てしまっていることは事実なので、ここで止めなければ次の世代にとんでもないふるさとを引き継いでしまうことになってしまいますので、原因である我々が何とかしなければならぬと思っております。

○臼木会長

財政の話が少し出ましたし、今評価で政策の拡充や縮小、廃止ということをかなり意欲的に取り組んで行かれるというようなお話を伺ってふと今思ったのですが、役所は潰れないというイメージについて、先ほどの佐藤委員からもありましたが、実は、借金についてはそんなに困らないといったことがあるのかもしれませんが、実は潰れます。直近で一番有名な市では夕張市があり、破綻し、指定管理下に置かれていてひどい状況ですが、何が起こるかという、ゴミ処理が1週間に1回あるかないか、図書館は全部やめる、病院もやめる、といったことが起こります。

サービスが低下すると、住んでいる人がいなくなってますます税金が減るという負のスパイラスのようなことが起こってしまい、最終的にほかの場所へ移れない人しか残らないような、そういう人口規模にまで落ちていって、市長の給料が中規模の会社に勤めている普通の職員の給料よりも年収が安く、事務用品は公費で一切買うことができない、トイレットペーパーもないといった状況になったりするという事を見聞きしたりしたことがあります。

先ほど市長はオブラートに包んでらっしゃいましたが、私は数字を見る限りだとその直前、崖っぷちに仙北市は今立っているのではないかと思います。このまま放置すると本当にブレーキ効かなくなると思うので、こういうロジカルな取り組みをして、冷静に議論しながら何をやるかやらないかをより分けていって、まだ余裕があるので若い人たちに繋いでいけるような状況まで少し持っていくということをまず目標に見ていただけたらと思うのですが、切るということは足していくよりも大変です。しかし、そこはやはり市民の皆様にご理解をいただいて、トータルで市の生活がすごく豊かになっていくということを皆さんで議論をしながら理解を深めていくという方法しかないのかなと思います。

これはまず第一歩なので、不満が残る方も出てくると思うんですが、市長が今おっしゃった通り、タウンミーティングなど市民との直接対話のような場をぜひたくさん作っていただいて、不満を述べていただくというよりも、市の在り方というものをきちんとメッセージするという部分をぜひぜひやっていただきたいなと思っておりますし、私達もこの計画の一端を担っている責任を感じておりますので、ぜひコンプライトしてもらえようかと願っております。

それでは、一通り議案についてご議論をいただきました。本当に長い間、皆様方にお付き合いいただきまして、議論を重ねてまいりました。改めてお礼を申し上げたいと思います。

それでは進行を事務局にお返ししたいと思います。

○泉谷企画部次長兼まちづくり課長

これで本日の総合政策審議会の次第はすべて終了いたしました。

「第3次仙北市総合計画」につきまして、今後は、本日いただきましたご意見・ご指摘につきまして、内容を精査し、最終的な取りまとめを行ったのち、改めて議会への説

明を行い、成案となります。引き続きご協力のほどよろしくお願いいたします。

ここでご報告を申し上げます。委員の皆様におかれましては、委員の委嘱期間が今年度末をもって満了となるため、本日の審議会が最後のご出席となります。

これまで、本審議会の運営および審議に際し、貴重なご意見・ご助言を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。

それでは、市長の田口より、委員の皆様へ御礼のご挨拶を申し上げます。田口市長、よろしくお願いいたします。

○田口市長

改めまして、委員の皆様には大変長い期間ご審議を賜りまして、本当にありがとうございます。今回皆様よりいただいた意見を反映させていただきまして、第3次総合計画をしっかりと実施させていただきたいと思えます。

今まで、仙北市でもたくさん計画を立ててきましたが、残念ながら絵に描いた餅となって何も着手しない計画もたくさんありました。そういったこともあり、今回集約して一本化して、市民の皆様にはわかりやすく伝えたいということでこのような形となりました。一番重要なことはこの計画を実施して、結果が良くなることだと思えますので、PDCA サイクルおよび OODA ループを活用して市民の幸福度向上につなげていきたいと思えます。引き続き委員の皆様にもさまざまな形でご意見を賜ればと思っておりますので、これからもよろしくお願いいたします。

今まで本当にありがとうございました。

(15時15分終了)